本號(十面)　明治廿五年三月三十日遞信省認可　明治二十七年九月廿六日　第四千八十四號　(定價金二錢五厘)

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり
時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

明治廿七年九月廿六日 水曜日
舊暦甲午八月廿七日（辛、未）
日出午前五時三十三分　日入午後五時三十二分　月出午前一時三十九分　月入午後三時四十七分　滿潮午前一時四十八分　午後二時十四分
（西暦一千八百九十四年）
年始より二百六十九日　年末まで九十六日

時事新報特派員

天皇陛下は本月十三日を以て大本營を廣嶋に進めさせ給へり今後同地は戰報の中心點たるべきを以て御發輦の前夜本社は

特派員　足立莊氏

を同地に派遣したり又過般來朝鮮には京城に石川信氏あり北進の我軍には間利子八五郎、杉幾太郎、高見龜の三氏隨行し戰鬪の實況を報道するに於て遺憾なかるべしと雖も本社は尙は之を以て滿足する能はず更に

戰況畫報隊

を組織派遣したり畫報隊は三人より成立ち淺井忠、安西直藏、淺井魁一の三氏にして淺井忠氏は本社十二月附錄の初雪を染めたる有名の畫家、安西氏も近來畫事に志して深く此道を極め且つ寫眞の術にも通ず淺井魁一氏は寫眞の技に長じ專ら實況の撮影を擔任す斯る人々より組織したる本社の戰況畫報隊は既に戰地に向ひたれば新報の戰況報道は文章と繪畫と相待つて大に讀者を滿足せしむべきみとを期するを信ず

韓地に於ける本社の部署斯の如く之に加ふるに馬關には山崎知遠氏報道の一線點に在りて內外の要報を蒐集す日清交戰の事に關しては本社の報道、必ず世人を驚かすものあるを信ず

以上所記の如くなれば本社特派員の所在地と其擔任事務を列記すれば左の如し

大本營所在地廣嶋	足立莊
馬關	山崎知遠
朝鮮京城	石川信
北進軍隨行	高見龜
北進軍隨行	間利子八五郎
北進軍隨行	杉幾太郎

戰況畫報隊

畫報擔任	淺井忠
畫報擔任	安西直藏
寫眞擔任	淺井魁一

時事新報

英國新聞の所說

此頃の英國新聞紙に今度の戰爭に就て英國の利害と感情と自から相背馳するは誠に遺憾の至りなり單に感情より云ふときは近來英國の淺薄者社會にますます好評を博する日本の勝利を望んみとは最も希望する所なれども如何せん印度を保持するは英國の要務にして此目的を達する爲めには支那の如き頑然動かざる物體を外壁として以て露國の侵略を防がざる可らず故に日本の爲めは如何に面白からざれども止りとて日本の大勝利を見るは尙は一層面白からず云々の說を爲すものあり（去る十六日の紙上に譯出）甚だ解す可らざるの說と云ふ可し我輩の所見を以てすれば右の說に所謂英國の利害と感情とは全く實際と反對にして支那の勝利を喜ぶの心みそ寧ろ感情に出るものと認めざるを得ず抑も感情とは單に一時の好惡心に外ならざる其反對に數理上より事の得失を判斷するは即ち利害の觀念にして此點より見るときは日清の勝敗は果して如何なる關係ありやと云ふに申す迄もなく日本の勝利みそ數理に訴へて英國の利益なる可し我輩の嘗て述べたる如く彼の支那の老大國は人口と云ひ版圖と云ひ日本に十倍するにも拘はらず外國との商對貿易は我と伯仲の間にして誠に微々たるものなり即ち彼の國力の割合より算すれば貿易の爲めには纔に其國の十分の一を開き殘る十分の九は全く鎖國攘夷の有樣にして世界の交通を斷絕して獨り自から安んずるものに外ならず今の文明の世界に斯る老大國をして永く鎖攘の僻に安んぜしむるは恰も天物を暴殄するものにして世界一般の不利益なりと云ふ可し今回の戰爭に日本は文明の爲めに勢して彼の老大國の頑冥を懲らすの目的に外ならざれば我國勝利の曉には彼國人も始めて從來の弊を啓き世界の表面に開國の實を呈するに至るみとならん左れば英國商賣の上より見て最も喜ぶ可き所なるに若しも彼の新聞紙の說の如くならんには大國の頑陋を今の儘にして其十分一の開國に甘んじ一分の利に戀々して九分の大局を忘れ恰も商賣貿易の發達を嫌ふ者に異ならず是れぞ正しく一時の感情にして文明國人の中にても老練着實、常に永遠の利害に着目する英人の平生に徵して斯る說ある可しとは我輩の信ぜざる所なり又露國の侵略に對して支那を維持するは英國の要務なり云々の說の如き從來の政略に於ては或は左る意味もありしならんなれども今日の實際に於て彼の老大國は果して東洋の保障と爲すに足るの實力あるや否や既に今回の戰爭に付ても彼の擧動を見れば其一擧一動實に呆れ果たる始末にして保障の實用は扨置き唯是れ東洋の全面に遺棄したる腐敗國の好餌食たる可きのみ英國人に於ても彼の賴むに足らざるを悟りしは敢て今度の戰爭を待たず既に已に其方寸に決する所あるは疑もなき事實にして英清同盟云々の如き今日と爲りては最早や過去の夢たるにも拘はらず一二の新聞紙が一時の感情の爲めに斯る說を爲したればとて決して彼國の輿論として認む可きものに非ずと思ふに其新聞紙の如きも遠からずして自から所見の正しからざるを悟り其筆鋒を變ずるに至らんみと我輩の敢て疑はざる所なり

雜報

○定遠の燒災に就て　鐵甲艦は木造の部分極めて少なければ平素決して火災の起るものにあらず假令一部分に火を失するも之を消止むるは實に容易なりとの事なれども今回海洋嶋附近の大戰に定遠が燒災に罹りたるは我砲丸の能く敵の鋼鐵を突破りたると同時に其部分に空虛を生じ之より大氣の流通したるが爲め漸次石炭に燃え移りたる者ならんか尤も平常の火災は密閉して空氣の流通を防がば直に消止むべしと雖も砲丸の的中したる空虛は容易に閉塞し得べきにあらざれば同艦は之を消し止むるに就て餘程困難したるならんと嘗て海軍の將校たりし某外國人は物語れり

○砲術の熟練、敵軍の敗北　海洋嶋附近の海戰に敵艦の早くも戰鬪力を失ひたる所以は我軍艦より發射せし速射砲に乘組員の多數が擊殺されたるが爲めならんか元來日本人の砲術に熟練せるは素養ある事にて我海軍の始めて制を英國に取るや當時同國より傭入れたる教官三十五名は何れも皆砲術を以て有名の人々なりしかば我將校士官の同師に就て學ぶもの皆砲術に長じ後外國士官の日本軍艦を見るものは何れも皆餘り砲術のみに力を注ぎ過ぎざるやと注意したる程なりしに諸氏の熟練遂に空しからず我艦より發射したる砲丸は能く敵艦に中り遂に四艦を沈沒せしむるに至りたるものならんと云ふ

○流石は倫敦タイムス　牙山及び牙山近傍の戰の結果に就き支那と日本との出處より來りし報道の全く相反せしが爲めに倫敦の人心、五里霧中に彷徨するを觀て倫敦タイムスは一編の强硬なる社說を揭げたり曰く上海及び其他の地方に頻に流行せし所の支那製の報知の倫敦に達したるものに據れば七月二十七八の兩日に於ける役に日本人は連戰連敗二千人を殺され其後李提督の爲めにも擊破られて終に京城に追込められたりとみは正しく彼の北支那日々新聞の仁川通信者が報道せし無根の報知と符節を合せり乃ち此報知と日本より來りし報知とを比較して倫敦タイムスは論じて云く此二條の物語りは正さしく其反對に衝突するものと斷案せざるを得ずとタイムスは尙ほ語を次で云く牙山の戰鬪に關しては我輩は支那日本孰れの大將より受取り得べきものよりも尙一層、信を置くに足る可き報知を待たざる可らずと我輩はタイムスが尙一層、信を置くに足ると云ふ其報知を得て支那の筋より來る報知に重きを置かざるに至りしなる可しと想像するなり畢竟タイムスは諸報道を辨別するものなり彼の東洋に於ける一種の英字新聞紙等が徒に其事の無根を證明せられたる後までも唯譴で支那製の無法報知にのみ信を置く先例を西洋の天地に開始せざるなり（橫濱メール）

○間諜嫌疑者　一昨二十四日上海より歸朝したる本邦人某は支那の間諜者ならんとの嫌疑を受け拘禁せられたるよし

○廣嶋特報

九月二十二日午前七時廣嶋に於て　特派員　足立莊

海戰に關する報告一束

昨は平壤、今は黃海、陸上に海面に引續き我軍の大勝利、豫て斯くある可しとは期したる事ながら又今更の樣に悅ばれて實に嬉しきものは勝利なりけり斯くて海面の快報は本月十九日より今日まで諸方より電送し來りて或は仁川、或は釜山、或は遠き上海より達したるもあり余は得るに隨て之を讀者に急報し置きたれども其諸報告は各多少相違したる點ありて判然眞僞を分ち難きも

のあり因て今去る十九[illegible]重傷ども厭はず以て[illegible]

第一報

本日午後四時四十分仁川發　去る十六日我艦隊九艘は[illegible]於て開戰し我艦隊大勝利を[illegible]又當地[illegible]晴今大同江より入港の[illegible]一時我艦隊は海洋嶋の北[illegible]出逢ひ彼より[illegible]り我艦皆無事　陛下の感激六合に洽し[illegible]

大本營

第二報

（此報は[illegible]）十九日上海よりの來電に日[illegible]南洋艦隊の開戰あり[illegible]の[illegible]及び[illegible]の二艦は[illegible]艦三隻[illegible]と云ふ[illegible]此戰に戰死したりと我[illegible]其報に於て[illegible]の公報に[illegible]に歸したることを察する[illegible]

在廣嶋伊藤首相宛

第三報

十九日上海より他の報に日[illegible]艦は四艦を失ひ水師提督[illegible]も亦三艦を失へりと

在廣嶋伊藤首相宛

第四報

本月十六日午後[illegible]時本艦[illegible]經て大孤山港沖に向ひ進行[illegible]致定遠、鎭遠、經遠、致遠、來[illegible]（以上十二艘）水雷六艘を[illegible]艦隊中我軍艦西京丸[illegible]「ホンダタックル」を用ひ[illegible]び水雷艇の中を[illegible]奏せざりし我軍艦は[illegible]り

本艦列外に出づるとき敵[illegible]隊は尙は決戰をなしつゝ[illegible]嶋に出逢ひ左の[illegible]後ち本隊の在所を失ひ今[illegible]陸軍兵[illegible]との二つに[illegible]ちに[illegible]の爲め[illegible]と又昨日（即ち十七日）[illegible]昨日海戰我大勝利、本艦[illegible]本艦は負傷十二名、本艦に[illegible]下[illegible]なり

大本營

第五報

九月[illegible]

昨日（即ち十七日）午後零時[illegible]來城西京丸等の十二艦は[illegible]海岸に戰ひ日沒に至り[illegible]八重山は今日[illegible]の[illegible]

第六報

九月[illegible]

[illegible]

第七報

[illegible]

第八報

[illegible]